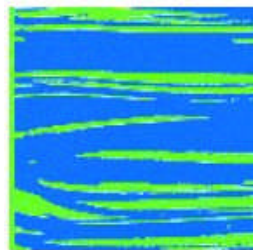


日本行動分析学会ニューズレター

J-ABAニューズ



2014年 秋号 No.76 (2014年12月20日発行)

発行 日本行動分析学会 理事長 園山繁樹

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1 リファレンス内

FAX: 06-6910-0090 (日本行動分析学会事務局と明記) URL: <http://www.j-aba.jp/>

E-mail: j-aba.office@j-aba.jp

一般社団法人設立準備委員会報告 (1) 理事長・園山 繁樹
自著を語る:『自閉症児のための活動スケジュール』 松下 浩之
自著を語り, 近況を語る:『拝啓, アスペルガー先生 ー私の支援記録より』他 奥田 健次
連載: こんな論文書きました (1) 渡辺 修宏
連載: こんな論文書きました (2) 丹野 貴行
2015年度「日本在住学生会員のABAI/SQAB 参加に対する助成事業」応募要項 国際委員会
学生会員へ朗報! 2015 ABAI 京都大会参加も助成します! 国際委員会・杉山尚子
編集後記 ニューズレター編集部

一般社団法人設立準備委員会報告 (1)

理事長 園山 繁樹

去る 11 月 29 日 (土) に定例常任理事会に先立って第 1 回一般社団法人設立準備委員会を開催し, 主に登記に必要な定款案について協議しました。年次総会でも述べましたように, 現在の本学会の組織等に準じた形での法人移行ができるように検討しました。具体的には, 現在の理事会に相当するのが社員 (代議員) 総会, 現在の常任理事会に相当するのが理事会としています。また, 会員の選挙によって選ばれる代議員については立候補制とすることを原案として検討しています。但し, 定款は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に依拠する必

要がありますので, 現在細部の確認をしているところです。

今後は定款案について理事の皆様にもご確認いただくとともに, 1 月には学会 HP に掲載して会員の皆様からもご意見を募集することになっています。いただいたご意見は 2 月に開催予定の第 2 回設立準備委員会の審議の際に参考にさせていただきます。ご意見について個別には回答を差し上げませんので, ご了承ください。

以上, ご報告しますとともに, 今後ともご協力のほど宜しくお願い致します。

<自著を語る>

リン・E・マクラナハン, パトリシア・J・クランツ (著)

園山 繁樹 (監訳)

『自閉症児のための活動スケジュール』

松下 浩之 (鶴見大学短期大学部)

「お堅い」タイトルと表紙でご好評の(?) 園山繁樹先生の監訳のもと、また「インパクトのある」訳書を出版させていただきました。原書は McClannahan 博士と Krantz 博士の著書「Activity Schedules for Children with Autism: Teaching Independent Behavior」(Woodbine House 社, 2010 年改訂版) です。

「インパクトのある」というのは、様々な場面においていえることです。まず、一つ目は自閉症の子どもたちを支援する立場の方々にとってです。「スケジュールを視覚的に提示して見通しを立てる」というのは、わが国においても自閉症支援の基本として広まってきているといえます。しかし、学校現場や福祉現場でみかける「スケジュール」が効果を発揮しているかという点、残念ながら必ずしもそうではないようです。そしてそのような場合、支援者にとってスケジュールを利用する行動が強化されず、黒板の「装飾品」になっていることさえ見られます。このような状況は、「スケジュール」を適切に作成し、利用できていないために起こっていると考えられます。本書は、どのようにスケジュールを作成し、利用していくか、またスケジュール利用の未来まで基本的なことから詳細に書かれています。これらは支援者の立場の方々にとって大きなインパクトを与えてくれるでしょう。

また、自閉症の子どもたち本人にとっても「インパクトのある」内容となっています。本書で強調されているのは、スケジュールを利用することによって「自立」を促すということです。いうまでもなく、特別支援教育の目指すところは本人の自立と社会参加です。本書では、スケジュールを利用することによって自立を促進しようというのです。教育・福祉現場において自閉症の子どもに「スケジュール」を使用するというと、予定を提示して理解を促すという視点に終始しがちです。もちろんそれは重要なことですが、本人が行いたい活動を自ら選択し、やらなければならないことも含めて活動を計画し、予定通りに実行するということは主体的な生活のためになくてはならないことです。我々も手帳やタブレット端末などを用いてそのように生活しているのです。自閉症の子どもたちに必要なことは、「予定を理解させる」ことだけでなく「予定を主体的に管理する」ことであり、そのための補助(支援)ツールとして活動スケジュールを利用することが効果的なのです。しかし、そのようなことが突然できるわけではありません。そうなるための段階的な手続きについて、本書では詳細に書かれています。活動スケジュールを使いこなすことによって自立の生活を送ることができれば、本人にとって大きなインパクトとなるでしょう。

最後の「インパクト」は私自身にとってです。本書の原書を初めて読んだのは、修士課程の大学院生の頃でした。研究室の先輩に紹介され、辞書を片手に読み込み、修士論文をはじめとしていくつかの事例研究の題材としました（松下・園山，2008 など）。そのほか臨床場面や学校等でのコンサルテーションでも活動スケジュールを導入し、多くの貴重な経験をさせていただきました。また、効果はあるけれどもスケジュール作成のコストがかかるなど、現場の支援者の方々から聞かれる要望に対してどのように改善するかという、現在の関心事にもつながっ

ています。原書との出会いがなければ、私の人生も大きく変わっていたことと思います。

「監訳者あとがき」にも書かれていますが、スケジュールは必要な人もいれば必要のない人もいます。また、必要な人にもそれぞれ必要としている度合いが様々あります。そのような前提を踏まえて、「自閉症の子どもにはスケジュール」ではなく、一人一人の支援ニーズに合わせて、それぞれの自立した生活のために活動スケジュールを利用することが選択肢の一つとなり、自閉症の子どもとその家族の生活が豊かになることを願っています。

<自著を語り、近況を語る>

奥田 健次（著）

『拝啓、アスペルガー先生 ー私の支援記録より』他

奥田 健次（行動コーチングアカデミー・桜花学園大学大学院客員教授）

1. 自著を語る

（1）『拝啓、アスペルガー先生 ー私の支援記録より』（飛鳥新社）

2014年8月に飛鳥新社から『拝啓、アスペルガー先生 ー私の支援記録より』という書籍を上梓しました。これは、特定非営利活動法人アスペ・エルデの会の機関誌『アスペハート』で8年ほど連載してきたものの中から、いくつかを抜粋して加筆修正したものです。

事例研究という研究手法を、何とか別の形で一般の方にも伝わるような出し方を考えていたのですが、その目的は果たせたようです。もしかすると、臨床系の学会の事例研究よりも親子や家族の様子や、セラピストの見立てや介入が目につかびやすいものになったかもしれません。

いうまでもなく、中身は応用行動分析学を中心とした介入が繰り返されています。ただし、たとえばタイムアウトなどの方法については慎重に取り扱ったというよりも、専門家の指導監督なしに実施することを禁じています。

中学生でも読めるように書いたので、専門用語はわずかしが使われていません。行動分析学会のみなさまには、応用行動分析学の諸技法がどこでどのように用いられているのか、探し当てながらお読みいただけるであろうと思います。もちろん、技法だけでなくターゲット行動の選択は、指導者である私の好みも反映されているので、その辺りも読み取っていただけるのではないかと期待しています。

（2）上記の『拝啓、アスペルガー先生』のマンガ版（飛鳥新社）

これは2015年1月に出版予定となっています。メジャー出版社から単行本も複数出しておられる新進気鋭のマンガ家・武鳥波さんが、アスペハートの連載と上記の原作本を元にマンガ化して下さいました。事例については原作にかなり忠実に描かれていますが、家族の様子などは武鳥さんによる脚色や創作も入っています。他にも、マンガという媒体ならではの描写があって、文字とは比べようもないほどリアルに現場の雰囲気が伝わってきます。

原作者の私本人としては、自分が実際にやったことがそのまま描かれているので、「ああ、これね」「なつかしいな」と感動はありません。出版社やマンガの制作会社の関係者各氏は、涙するほど感動したとのこと。お気持ちを想像することは出来ますが、そのままの事実なので原作者には実感できないのが残念です。

このマンガ版は、小学生でも読めるように配慮しています。原作本よりも、家庭の様子がいかがなり描かれているので、当事者家族の苦悩や孤立感などを共感していただけることでしょう。

（3）『世界に1つだけの子育ての教科書ー子育ての失敗を100%取り戻す方法』（ダイヤモンド社）

2014年12月に、ダイヤモンド社から『世界

に1つだけの子育ての教科書—子育ての失敗を100%取り戻す方法』という教科書を出しました。私が出してきた本の中で、初めて出版社サイドが書籍タイトルを押し通すという、私個人の中で前代未聞の出版物となりました。

私が大学院生の頃から温めてきた会話形式の教科書です。教授（私）と、架空の大学院生の軽妙な会話に始まって、よくある子育て上のトラブルや悪循環を取り上げてみました。世間一般が抱くような行動分析学とは真逆の行動の原因解釈を繰り返し取り上げて、それがまったく意味がないことや害悪になってしまうことにも何度も触れています。拙著『メリットの法則—行動分析学・実践編』（集英社）で詳細に解説した「阻止の随伴性」についても、その専門用語は使用せずに日常例を取り上げています。どこがその部分か、会員のみならずには容易にお気づきいただけるはず。「阻止の随伴性」を解説した教科書は少ないのですが、「こんなところにも阻止の随伴性が？」と意外と身近なものに思えてくるかもしれません。

また、ほとんどの精神科医療や教育福祉などが行動変容について無頓着で、予防的な教育を行うことなど念頭にない問題についても厳しく批判しています。病院への入院や施設への入所も、行動の結果として実行することの意義を提言しています。

まれに「データがあるのか」という筋違いの指摘をされる方がいますが、これは研究論文ではなくて教科書です。グラフが無いだけで、そのように騒ぐのは滑稽な話です。本書のような教科書で展開される主張は、数多くの実験研究や実践研究で明らかになったことを総じて述べているわけで、主張の背景には基礎や応用のデータだらけであると、逆に言えるでしょう。

2. 長野県に私立幼稚園を設置計画しています

2014年6月、長野県に私立幼稚園の設置申請書類を提出し、幼稚園の設置申請を行いました。設立趣意書の中では、この幼稚園が行動分析学を用いたものであることを謳っています。

子育て上の保護者の悩みやストレスは、親子の関係において悪循環をもたらすものです。うまくいかないことを子どものせいにするのではなく、子どもにとって最適な環境を設計する必要があります。そのためには、子どもの育ちにばかり着目するのではなく、申請した幼稚園では「親子ともに良い育ち」をテーマに掲げています。幼稚園のスタッフや親指導に、既存の幼稚園よりも相当に力を入れて取り組んでいきます。さらに園児だけでなく、地域に開かれた教育相談拠点として、幼稚園内に外来にも対応できる相談室を設計しています。すでに全国から、この幼稚園設置に期待する熱いご声援をいただいております。

アメリカ合衆国では、ケラーズスクールが「行動分析学を学校教育全般に用いている私立学校」として知られています。日本にはまだこうした学校は設立されていません。

申請した幼稚園は、地元と長野県の保護者や関係者のみならず、全国に向けてニーズに応えられるような教育プログラムの情報発信も目指しています。行動分析学を用いて、共生社会を実現するための「インクルーシブな教育」も実践していく計画ですので、設立に向けてご支援を賜りますれば幸いです。

ケラーズスクールについては、島宗理先生の研修報告をご覧ください

(http://www.naruto-u.ac.jp/~rcse/s_fkschoolrep.html)。

<連載：こんな論文書きました (1)>

渡辺修宏 (2013) 行動随伴性に関する教示が利用者の問題行動に対する福祉専門学校生の援助にもたらす影響—従来の教育内容に基づく教示の効果との比較—, 対人援助学研究, 3, 22-38.

渡辺 修宏 (水戸看護福祉専門学校)

『対人援助学研究』は、日本対人援助学会が発行する雑誌です。この雑誌は、対人援助に関心のある多くの方々にひろく公開するために、Web 上での発表形式をとっています。この雑誌に、拙稿「行動随伴性に関する教示が利用者の問題行動に対する福祉専門学校生の援助にもたらす影響—従来の教育内容に基づく教示の効果との比較—」を掲載して頂きました。

この論文は、援助者を目指す学生が行動随伴性の教示を受けることで、援助場面にかかわる問題を利用者と援助者の行動の問題と捉えることができるようになるかどうか、さらに、ロールプレイ場面で徘徊を示す利用者に適切に対応できるかどうかを、従来の教示（福祉教育）の効果と比較したものです。結果、行動随伴性の

教示を受けた学生は、利用者の問題行動を行動的に捉えるようになり、徘徊を示す利用者に代替行動を提案することができ、さらに援助の失敗件数がなくなりました。

social worker や care worker 養成といった福祉教育では、まだまだ行動分析学の知見が十分に普及しているとは言えません。しかし上記は、行動分析学に基づけば援助の質は確実に向上することを示した論文といえます。

対人援助学会

<http://www.humanservices.jp/index.html>

著者連絡先 (渡辺修宏)

E-mail : nw09022336669@yahoo.co.jp

<連載：こんな論文書きました (2)>

Tanno, T., Maguire, D. R., Henson, C., & France, C. P. (2014).
Effects of amphetamine and methylphenidate on delay
discounting in rats: interactions with order of delay
presentation. *Psychopharmacology*, **231**, 85-95.

丹野 貴行（文京学院大学人間学部）

直後小強化子（SS）と遅延大強化子（LL）の選択において、セッション内で後者の遅延時間を段階的に伸ばし1セッション内で遅延価値割引関数を得るというこれまでの手続きは、実験心理学者には馴染みの極限法の上昇系列のみを行っているようなものである。すぐさま下降系列の必要性に気付くであろうが、驚いたことに薬理的な遅延価値割引研究ではこの視点はほとんどなかった。そこで、これまで遅延価値割引を改善する（待てるようになる）と考えられてきたドーパミン作動薬を上昇系列と下降系列の両方で試したところ、前者では確かにLL選択が増加したが、後者では逆に減少した。要する

に、ドーパミン作動薬はセッション開始時の選好（上昇系列では遅延時間が短いのでLL選択が多く、逆に下降系列では遅延時間が長いのでLL選択が少ない）への固執性を高めていただけだったのである。薬理に関する深い議論はなく、純粹に行動的な観点から議論を進めている。遅延価値割引研究がまだまだであることと、その薬理学的研究には実験心理学者も容易に参入可能であることを感じてもらえれば幸いである。

著者連絡先（丹野貴行）

E-mail: tantantan01@gmail.com

2015年度「日本在住学生会員のABAI/SQAB

参加に対する助成事業」応募要項

国際委員会

日本行動分析学会は、創立20周年を機に、次世代を担う学生会員の国際的な情報交流活動を推進するために、ABAIへの参加を助成する事業を開始し、さらに2007年度からはSQABへの参加も助成対象に加えました。また2013年度からは隔年で開催される国際会議への参加も助成対象に含めることとなりました。学生会員の奮っての応募を歓迎します（ただし、2015年9月に京都で開催される国際会議については別の「応募要項」を参照）。

1. 助成対象学会：

2015年5月に米国サンアントニオで開催されるABAI第41回年次大会またはSQAB

2. 発表の種別：

口頭発表、ポスター発表、シンポジウムやパネルディスカッションのスピーカー、のいずれかであること。ただし、口頭発表、ポスター発表では、第一発表者であること。

3. 応募資格：

- 1) 2014年10月1日に本学会の学生会員として登録されている者で、対象学会参加に対して他の資金援助を受けていない者。ただし、SABAが募集する学生発表者の大会参加費免除への同時応募は認められる。
- 2) 申請時に日本国内に居住していること。
- 3) 過去にこの事業による助成を受けた者も応募できるが、選考にあたっては、過去にこの事業による助成を受けていない者を優先する。

<提出書類>

- 1) 規定の応募用紙に必要事項を書き込んだも

の。応募用紙は、ニュースレター、学会ホームページあるいは学会事務局からも入手できる。

- 2) 対象学会発表申込時に提出した「発表申込書」を印刷したもの。
- 3) ABAIが発行する「発表受理書」を印刷したもの。

<助成額>

応募者の中から2名に対し、1名につき75,000円を支給する。ただし、受給後、対象学会に参加を取りやめた者は返金しなければならない。

<応募締切>

2015年3月31日消印有効。

<選考方法>

過去にこの事業による助成を受けていない者を優先し、原則として、2015年4月20日までに、事務局において公開抽選を行い、常任理事会において助成者を決定し、該当者に通知する。その他、選考に必要な事項は常任理事会で決定する。

<応募先>

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

日本行動分析学会事務局

URL : <http://www.j-aba.jp/>

E-mail : j-aba.office@j-aba.jp

なお、2015年9月に開催されるABAI国際会議京都大会においても、発表する学生会員への参加費助成を行います。詳細は学会ホームページにて確認ください。

年 月 日

2015 年度「日本在住学生会員の ABAI/SQAB 参加に対する助成事業」
申 請 用 紙

氏 名： (日本語／英字表記)	
所 属： (日本語／英字表記)	
E-mail：	
発表の種別：	<input type="checkbox"/> 口頭発表 <input type="checkbox"/> ポスター発表 <input type="checkbox"/> シンポジウム <input type="checkbox"/> パネルディスカッション
発表タイトル：	
指導教員の 署名：	<p>私_____は、申請者_____が、 _____大学に所属する私の指導学生で あることを証明します。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>氏 名： _____ 印</p> <p>所 属 _____</p>
過去の本助成の有無	有 (_____ 年度) 無

学会記入欄	
受理月日	受理番号
月 日	

学生会員へ朗報！

2015 ABAI 京都大会参加も助成します！

国際委員会 杉山 尚子（星槎大学大学院）

2015年9月27日（金）～29日（日）に京都グランヴィアホテルにおいて、記念すべき第8回 ABAI 国際会議が開催されます。参加費に関しては学生会員は大幅に優遇されていますが、日本行動分析学会は、以下の通り、さらに参加費の助成を行うことを決定しました。

対象：日本行動分析学会学生会員（海外在住者も含む）の発表者

助成額：10,000 円

助成対象者数：50 名

発表申込締切：2015年3月11日

詳細な応募方法は近日中に学会 HP にアップします。ふるってご応募下さい。

編集後記

まず初めに J-ABA ニュース秋号の発行が遅れてしまい、会員の皆さまにご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

今回から新たに「こんな論文書きました」という企画を始めさせていただきました。早速ご寄稿いただいたお二人の先生に深く感謝を申し上げます。会員の皆さまもご自分が執筆された論文を J-ABA ニュースでご紹介いただければと存じます。次号以降も、まだまだ原稿は募集

しております。今回の企画以外にも、ご自分の活動の紹介や、行動分析学について考えていること、あるいは現在の社会的事象に対する行動分析的考察など、行動分析学に関することを広くご寄稿いただければと思います。

日増しに寒くなってきておりますが、体調管理に気をつけて、どうぞ良いお年をお迎えください。

(NY)

J-ABA ニュース編集部よりお願い

● ニュースレターに掲載する様々な記事を、会員の皆様から募集しています。書評、研究室紹介、施設・組織紹介、用語についての意見、求人情報、イベントや企画の案内、ギャグやジョーク、その他まじめな討論など、行動分析学研究にはもったいなくて載せられない記事を期待します。原稿はテキストファイル形式で電子メールの添付ファイルにて、下記のニュースレター編集部宛にお送りください。掲載の可否については、編集部において決定します。

- ニュースレターに掲載された記事の著作権は、日本行動分析学会に帰属し、日本行動分析学会ウェブサイトで公開します。
- 記事を投稿される場合は、公開を前提に、個人情報等の取扱に、十分ご注意ください。

〒582-8582 大阪府柏原市旭が丘 4-698-1

大阪教育大学 大河内研究室気付

日本行動分析学会ニュースレター編集部

大河内 浩人

E-mail: okouchi@cc.osaka-kyoiku.ac.jp